

ヴァリノタイヤのハイグリップラジアル 発売前のプロトタイプを試す

話題の真相

完全にドライグリップに振ったタイム狙い

ドリフト好きの間での知名度が高いヴァリノタイヤが初のグリップ走行用スポーツハイグリップラジアルを販売する発売前にそのプロトタイプモデルの実力を試す機会に恵まれた

VR08GPのプロトタイプモデル VR00β

トレッド面はスクエアではなくラウンドした形状。サイドウォール剛性もこの単品状態で押してみると「極めて硬い」という感じでない。それらからも、さまざまな仕様にマッチしそうでコントロール性も扱いやすそうな印象を受ける

アウト側の浅溝が路面に引っ掛かることで、コンパウンドと併せてさらなるグリップ力を実現。溝が消えると若干タイムは落ちるというが、その状態からも安定したグリップを発揮してくれる



イン/アウトの指定があって、イン側はその溝で区切れた小さいブロックが並ぶ。太めの縦グループは排水性を求めたもの。アウト側の溝は数回の走行で徐々に消えて大きなブロックの顔に

市販モデルに近い状態の プロトタイプの実力は？

VR08GPを開発するにあたって技術陣が考えたのは、国産ハイグリップスポーツタイヤと勝負できるレベルに仕上げるということ。そこで、このプロトタイプVR00βを先行でモニター販売し、ターゲット層のリアルな使用状況でのデータを集めるという活動を行っている。多彩な車両での、内圧変化やアライメントでの傾向、グリップ変化といったデータをもとに、VR08GPを仕上げる前に細かなチューニングを行っている。特徴を確認しておこう。大胆な左右非対称のパターンには、イン側に排水性のための太めの縦2本グループを備える。イン側のブロックは小さく、逆にコーナリングでの荷重をおもに担うアウト側は「極めて浅溝」かつブロックは大型にして高い剛性を確保する。

この「極めて浅溝」はすぐに消えるそうだが、ヴァリノマーケティンクの清水寿記氏によると、「このアウト側の浅溝が残っているときに路面に引っ掛かり一発タイムが狙える。浅溝が減って消えると若干タイムは落ちるが、その落ち幅は小さいので周回タイムが安定している」とのこと。

今回のテストはエイトのタイムアタッカー「エイトリアン」が担当。実際の走行を見てみよう。

試乗インプレはRX-8のアタッカー エイトリアン

265/35R18 サイズをVOLKRACING ZE40 (18×10J 39) に組み合わせて4輪に装着。SE3Pエイトリアン号はエアコン付きフルチューンがコンセプトで、エンジンはRE 雨宮サイドポート拡大に、サスキットはクアンタムRE 雨宮スペック (F18・R10kg/mm)。L.S.D. は OS 技研スーパーロック1.5way



エイトの第一人者
エイトリアン

RX-8を集めた走行会の主催者としても知られる。あくまでアマチュアでありながら、エイトを駆って筑波コース2000を1分0秒台でラップする実力の持ち主。VR00βを愛車に装着してモニターテストを行った

テスト時にはあいにくの雨が しかし温まると確かな手応え



コースイン直後に土砂降りになるとい、ドライ向けタイヤにはツライ条件となった。しかしその状態でもエイトリアンはスライドしつつも周回を続けた。ストレートでは2本の縦溝が排水に効いており、さらに、熱が入ればコンパウンドで路面に喰い付いてくれることを確認している。とはいえ、やはりあくまでドライ向けタイヤなのでウェットでの使用は避けたいほうがいい

なんとインラップを終えた ころから大粒の雨が

今回テストを行った筑波サーキットコース2000での走行時は気温24.3℃、路面温度26.9℃。走行1時間ほど前に雨が止み、路面はほぼドライという条件の中スタートしたが……。

ところが、インラップを終えたところで大粒の雨が降り出し、タイヤの熱入れが終わらないままへビウエットへ変化してしまった。そのため、コーナーではアクセルを踏めず、クルマが完全に直線に向いてからしか加速できない。エイトリアンも苦戦。

「20分走行枠の後半はタイヤに熱が入ってある程度踏めました、排水性の低さから、熱が入る前は踏むと即滑るという状態。内圧は冷間1.8kg/cm²でスタートでしたが、走行後も1.9kg/cm²とあまり上がらない状況でした。

ファイリング的にはコンパウンドで路面に喰い付く感じがあり、レスポンスのよさもある。おそろしく温間2.1〜2.2kg/cm²くらいがベストな内圧かと思われるので、ウェット時には冷間で2.0kg/cm²くらいしておくのがよいはず」と走行後のエイトリアン。

清水氏は「ドライブリップを攻めた設計なので、ウェットでは性能を活かせないの予想していました。今回のウェット走行では表

面の皮むきができたくらいでしょう。ただ、ウェットでは初走行だったので、これも市販モデル開発の参考にしていきます」とコメント。ドライでのテストはできなかったのは残念だが、今シーズンのタイムアタックにおいて注目タイヤが登場するということは間違いはない！



VALINO マーケティング
開発 清水寿記

VALINO Try The Performance デビューキャンペーンを実施!

2021年3月31日までの期間限定で、VR08GPを1台分(4本)購入すると、VALINO オリジナルナップサック(先着100名)や、VALINO VR08GP シリコンバンド、VALINO ステッカーがもらえるキャンペーンを実施中。数量限定なので購入はお早めに!

ラインナップ	価格(税別)
315/30R18	3万円
295/30R18	2万6800円
265/30R18	2万800円
245/40R18	1万9800円
235/40R18	1万8600円
255/40R17	1万7600円
245/40R17	1万6300円
225/45R17	1万4800円

ショップ宛の送料は無料。個人宅宛は送料1,000円/1本。※沖縄・離島は別途



「高いドライ性能でタイム短縮を実現しながらも、手が届きやすいリーズナブルな価格であることもVR08GPの特徴です」